



読書習慣をつける

本校では毎朝8時30分～8時40分まで朝読書を行っております。パソコンやスマートフォンなどを使って様々な情報が簡単に手に入り、活字離れがどんどん進むこの時代に、本を読むことが改めて脚光を浴びています。

また、「行間を読む」という言葉のとおり、読みながら思いや考えをふくらませることができるのも読書の良いところです。本の中では時間や空間を超えて、様々な場所に行くことができるだけでなく、様々な人々と出会い、その行動や気持ちに触れることができます。我々が経験したことの無い状況での登場人物の気持ちや問題が起こったときの解決法を知ったり、昔の人の足跡をたどって、そこから多くのことを学んだりできるのです。

本校の教育目標「心豊かでたくましく、自ら学ぶ子どもの育成」にもあるように、今の時代、子どもたちに豊かな心、特に思いやりの心を育てることが大きな課題となっています。思いやりの心を育てるには、何よりも想像力が必要だと言われています。相手の置かれている状況や立場、気持ちを想像して言葉や行動に表すことが大切だというわけです。

読書には

- 1 想像力を養う
- 2 ものの見方を広げる
- 3 思いやりの心を育む
- 4 ^{こい}語彙が豊富になる
- 5 言葉遣いを学べる
- 6 文章を書く力が向上する
- 7 集中力がつく
- 8 自分だけの時間を持ち、自分自身を見つめ直すことができる



など良いところがたくさんあります。しかし、いくらその良さを話して聞かせてもすぐに本好きの人間が育つわけではありません。読み聞かせをはじめ、本に接する機会を多く持たせ、読書の楽しさを味わいながらそれを習慣化していくことが大切です。そのためには本校の朝読書の時間、図書時間を充実したものにしていきたいと思っております。読書の喜びや楽しみを知り、ものごとを正しく判断する力をつけておくことが、子どもたちにとってはとても大切なことだと思います。ご家庭におかれましても、子どもたちの読書習慣の定着に向けてご協力のほどよろしくお願いします。